



どの力を身につけよう としましたか？ <u>該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</u>	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法 これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください 適宜写真や図表等を入れていただいて構いません	① 防災会議（教師・地域・大学・NPO 法人・保護者等からなる） ○防災会議① 5月22日 13名参加 危険箇所調査「まちあるき」 ・年間計画で2学期に「まちあるき」を実施することを確認 ○防災会議② 7月10日 15名 「まちあるき」の場所と日程 ・6年の児童が住んでいる町(大柳町・新居町・安戸町)の「まちあるき」を確認 ・熱中症が心配なため、9月下旬に実施を予定 ・「まちあるき」の案内は、大柳町副総代の今井様、新居町は社教の中根様。調査研究は、愛知工業大学小池則満教授、岐阜大学橋本操准教授、NPO 法人ドウチュウブの小穴久仁様に一緒に、一緒に調査をお願いした。 ② 「まちあるき」の日時は、9月20日13時から15時45分 ・参加者：学校：6年生児童6名、教師2名、 大学：2名、NPO 法人1名 地域(案内人)2名、 合計13名で実施した。 ・場 所：大柳町・新居町・安戸町の通学路を中心に土砂崩れなどの危険がある場所を中心に活動 ・活動内容：事前に地域の方が情報を集めて、危険箇所を教えていただいたり、児童が通学していて不安に思っていたりしたところ等を中心に調査した。児童は学校のタブレットを一人1台持参して、危険箇所を写真を撮り、その場で気づいたことや説明を聞いたことなどを打ち込んだ。 ③ 電子マップ更新作業 10月11日14時40分～15時40分 ・参加者：6年生児童6名、教師2名 大学：2名、NPO 法人1名 合計11名で実施 ・場所：パソコン教室 ・活動内容 最初10分間で NPO 法人ドウチュウブの小穴久仁様から、パソコンでの入力の仕方を説明。児童は2人ずつペアで3グループに分かれて	



	自分が撮影した写真、その説明の入力を開始した。 大学・NPO 法人の方々はそれぞれの班に 1 人ずつ担当で付きながら児童の入力を支援していただいた。 A グループは大柳町 B グループは安戸町 C グループは新居町に分けて、それぞれの調査した内容がダブって入力されないように配慮した。最後に NPO 法人ドゥチュウブの小穴久仁様が、児童が入力した内容が、防災マップの反映されるようにしていただいた。
得られた成果 どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください	① 何気なく毎日通っていた通学路の崖などが、「真砂土」という、流動しやすく土砂災害の要因で県より「土砂災害特別警戒区域」に117 か所指定されていることを知って驚いた。 ② 地域の総代さんの説明を聞いたり、最近の大雨で土砂崩れの場所を見たりして、身近に危険な場所あることを知った。学校の他の児童や地域の人に伝えることの大切さを感じた。 最近土砂崩れがあった場所の説明 ③ 児童は、地域や大学、NPO 法人の方々と一緒に調査して、 ・花崗岩が長い年月で風化して「真砂土化（まさど）」している ・雨水が凍って大きな岩盤が裂ける ・木々の根が石の裂けたところに入り裂け目を大きくする ・昆虫が木々の根や幹を腐らせて倒している など、その場で説明をしていただき、学ぶことができた。 ④ 「まちあるき」で得た情報を、パソコンに張り付けたり説明を打ち込んだりして、多くの人に見ていただくことで、地域や後輩のために役立っているなど、達成感をもつことができた。 調査結果をパソコンに打ち込む作業 ⑤ 学校のホームページに掲載している内容を、学級でもお互いに紹介することができた。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
該当しないものを削除し該当するものを残す	思考力・判断力・表現力	かなり
課題・苦労・工夫	学びに向かう力・人間性	かなり
やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるように書いてください	① 本校では、地域と協力して、5 年前に紙媒体で全戸に大きな防災紙マップを配付した。調査結果を、紙媒体でカラー印刷して配布するには、大きく丈夫な用紙を使い、カラー印刷をしないと、学区が広すぎてわからない。防災紙マップの配付は、印刷会社でしかできず、しかも、毎年となると予算がかかり、不可能である。 ② 巨大な用紙に写真などを張り付けて、全員で 1 枚の防災紙マップを作る方法は、多くの学校で実施されている。それを学校の廊下などに貼っておくだけでは、情報は学校内にとどまり、あまり地域には貢献できない。 学校・大学・地域と協力して紙マップ作り - 本校も、毎年学区の拡大地図を用意し、地図に危険箇所の写真を貼ったり、説明等も書いたりして、防災紙マップを掲示してきた。 - 平成 28 年度には、アナグリフ写真を地図に貼り、危険場所を青赤眼鏡で見られる工夫した。 - 本年度は、地図の場所を確認して添付して記入する作業だけで 4 時間ほどかかるので、授業時間の確保や非常食販売や TV 防災交流などの時間確保のため中止した。 ③ 本校の特長は、7 年間毎年防災電子マップの作成である。学校のホームページの中の「防災学習」欄に「防災マップのコーナー」を新しく設定して、子供たちが調査した内容を毎年更新している。 - タブレットで写真を撮れば必ずその写真にはどこで撮影したかわかるように表示が出てくる。また、写真を撮影したところでコメントを入れれば、学校に帰ってから整理するときも「何のために撮影したか」が、わかるようになっている。 - 電子マップには自分たちが撮影したものだけを見ることができ、これまでの先輩たちが撮影した写真やコメントなどのすべてを	



	合わせて見ることができるようになっていく。これまでの研究の成果が積みあがっている様子が伝わってくる。 ・「防災電子マップ」は、誰でも常磐東小学校のホームページで閲覧できるが、認知度が低い。「学校だより」「校長だより」等で今後さらに紹介して、地域の「防災電子マップ」への関心を高めたい。
--	---

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について

1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください

関係者の名前・団体名	特定非営利活動法人ドウチュウブ（DoChubu） 小穴久仁 落合鋭充
関係者の説明	愛知工業大学地域防災研究センター内にあって大学と連携している
関係者の連絡先	0565-48-8818

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください

伝えたい相手	特定非営利活動法人ドウチュウブ（DoChubu） 小穴久仁 落合鋭充
伝えたい内容	児童の関心寄り添い、「まちあるき」をして、課題の解決やマップ作りにもご協力してくださり、不可能が可能になっています。 7年間ずっと一緒に本校と研究してきており、これまでも、防災紙マップや、防災電子マップ、防災アナグラフマップ作りなどに多大な協力をしていただいています。本当に感謝しています。
伝えたい相手	「まちあるき」に協力いただいた大柳町副総代の今井さん
伝えたい内容	大柳町の総代さんがお仕事で案内ができなくなり、困っていたら、副総代の今井さんが、気持ちよく引き受けていただきました。どこを案内したらよいか、事前に調べられて、地図をコピーして子供たちにもわかりやすく説明していただきました。 いろいろ場所が離れているので、歩いて移動すると1時間かかってしまうので、大型のワゴン車で児童と担任を全員を載せて案内していただきました。本当にありがとうございました。



説明されている今井副総代